Informatica

Informatica® Cloud Data Integration

File Processor コネクタ

Informatica Cloud Data Integration File Processor コネクタ
2022 年 4 月

© 著作権 Informatica LLC 2016, 2022

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複写、写真複写、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Informatica Cloud、および PowerCenter は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（https://www.informatica.com/trademarks.html ）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、https://www.informatica.com/legal/patents.html を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2022-06-17

目次

序文 5

Informatica のリソース 5

Informatica マニュアル 5

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト 5

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ 5

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース 6

データ統合コネクタのドキュメント 6

Informatica ナレッジベース 6

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center 6

Informatica グローバルカスタマサポート 6

第 1 章 : File Processor コネクタの概要 7

File Processor コネクタの概要 7

File Processor コネクタの実装 7

第 2 章 : File Processor 接続 9

File Processor 接続の概要 9

File Processor 接続の作成 9

特定のファイルの選択 11

日付パターン形式 12

File Processor 接続のプロパティ 14

Windows でのプロキシ設定の構成 14

第 3 章 : File Processor 操作 16

File Processor 操作の概要 16

ローカルファイルシステムと FTP サーバーまたは SFTP サーバーとの間のファイルの転送 17

ローカルシステムと SFTP サーバーとの間のファイルの転送の例 17

IBM AS/400 FTP、IBM z/OS FTP、IBM AS/400 SFTP、または IBM z/OS SFTP サーバーからのファイルのダウンロード 18

ローカルファイルシステム内でのファイルの転送 20

ローカルファイルシステム内でのファイルの転送の例 21

FTP サーバーまたは SFTP サーバーからのファイルの削除 22

FTP サーバーからのファイルの削除の例 23

パブリックキーおよびプライベートキーベースの認証 25

SFTP サーバーのパブリックキーおよびプライベートキーベースの認証の使用例 25

ファイルの圧縮または圧縮解除 27

ファイルの圧縮または圧縮解除の例 27

ファイルの暗号化または復号化 28

ファイルの暗号化または復号化の例 28

ファイルのアーカイブまたはアーカイブ解除 30

ファイルのアーカイブまたはアーカイブ解除の例. 30
ファイル名の変更. 31
ファイル名の変更の例. 32

索引. 34

序文

File Processor コネクタを使用して、Cloud Data Integration で File Processor に対して読み取りまたは書き込みを行う方法について説明します。組織の管理者およびビジネスユーザーが File Processor コネクタを使用してファイルを転送する方法を確認します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム（infa_documentation@informatica.com）までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト（http://www.informatica.com/cloud）にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレース

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

https://marketplace.informatica.com/

データ統合コネクタのドキュメント

データ統合コネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、https://search.informatica.com にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム（KB_Feedback@informatica.com）です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center（https://www.informatica.com/trust-center.html）にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。Informatica Intelligent Cloud Services Status ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

登録するには、https://status.informatica.com/に移動し、**［更新を購読登録］**をクリックします。その後、電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィードとして、またはこの 4 つを任意に組み合わせて送信された通知を受信することを選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインでカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートについては、Informatica Intelligent Cloud Services の**［サポート要求の送信］**をクリックしてください。またオンラインサポートを使用して問題を記録することもできます。オンラインサポートを利用するには、ログインが必要です。https://network.informatica.com/welcome でログイン要求できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html に掲載されています。

第 1 章

File Processor コネクタの概要

この章では、以下の項目について説明します。

- File Processor コネクタの概要, 7 ページ
- File Processor コネクタの実装, 7 ページ

File Processor コネクタの概要

File Processor コネクタを使用して、ある場所から別の場所にファイルを安全に転送できます。サイズと場所に関係なくファイルを転送するには、File Processor コネクタを使用します。

File Processor コネクタを使用して、次の操作を実行します。

- ローカルシステムと FTP サーバーまたは SFTP サーバーとの間でファイルを転送する
- ローカルファイルシステム内でファイルを移動する
- ローカルファイルシステム内でファイルをコピーする
- ローカルファイルシステム内でファイルを圧縮および圧縮解除する
- ローカルファイルシステム内でファイルを暗号化および復号化する
- ローカルファイルシステム内でファイルをアーカイブおよびアーカイブ解除する
- ローカルファイルの名前を変更する

例えば、システム管理者として、ローカルサーバーとリモートサーバーとの間でファイルの転送を実行する必要があるとします。ファイルが存在する FTP サーバーまたは SFTP サーバーに接続するための接続を作成します。FTP サーバーまたは SFTP サーバーからローカルファイルシステムにファイルをダウンロードするための同期タスクを設定します。

File Processor コネクタの実装

File Processor コネクタを使用してファイルを転送するには、同期タスクまたはマッピングタスクで、File Processor ソースオブジェクトを選択し、File Processor ターゲットオブジェクトを作成します。

ファイル操作を実行するために使用できる File Processor ソースオブジェクトは次のとおりです。

- SFTP_PUT
- SFTP_GET

- FTP_GET
- FTP_PUT
- FTP_DELETE
- SFTP_DELETE
- FileMove
- FileCopy
- FileArchive
- FileUnarchive
- FileCompress
- FileDecompress
- FileEncrypt
- FileDecrypt

ファイル操作を実行するために使用できる File Processor ターゲットオブジェクトは次のとおりです。

- FileRename
- FlatFile

フラットファイルにはステータス情報が含まれています。ステータスを表示して、正常に転送されたファイル数と転送に失敗したファイル数に関する情報を取得できます。

File Processor コネクタに接続する FTP または SFTP のプロキシサーバーの詳細を指定できます。

File Processor コネクタに接続する FTP または SFTP に次のキー交換アルゴリズムを使用できます。

- ecdh-sha2-nistp256、ecdh-sha2-nistp384、ecdh-sha2-nistp521、diffie-hellman-group14-sha1、diffie-hellman-group-exchange-sha256、diffie-hellman-group-exchange-sha1、diffie-hellman-group1-sha1
- ssh-rsa、ssh-dss、ecdsa-sha2-nistp256、ecdsa-sha2-nistp384、ecdsa-sha2-nistp521
- aes128-ctr、aes128-cbc、3des-ctr、3des-cbc、blowfish-cbc、aes192-ctr、aes192-cbc、aes256-ctr、aes256-cbc
- hmac-md5、hmac-sha1、hmac-sha2-256、hmac-sha1-96、hmac-md5-96
- クライアント: hmac-md5、hmac-sha1、hmac-sha2-256、hmac-sha1-96、hmac-md5-96

第 2 章

File Processor 接続

この章では、以下の項目について説明します。

- File Processor 接続の概要, 9 ページ
- File Processor 接続の作成, 9 ページ
- File Processor 接続のプロパティ , 14 ページ
- Windows でのプロキシ設定の構成, 14 ページ

File Processor 接続の概要

ファイルを処理するタスクを作成するには、File Processor 接続を作成する必要があります。ファイル処理操作（ファイルの転送、アーカイブ、アーカイブ解除、暗号化、復号化、圧縮、圧縮解除、移動、またはコピーなど）を実行する場合は、File Processor 接続を使用します。

File Processor 接続の作成

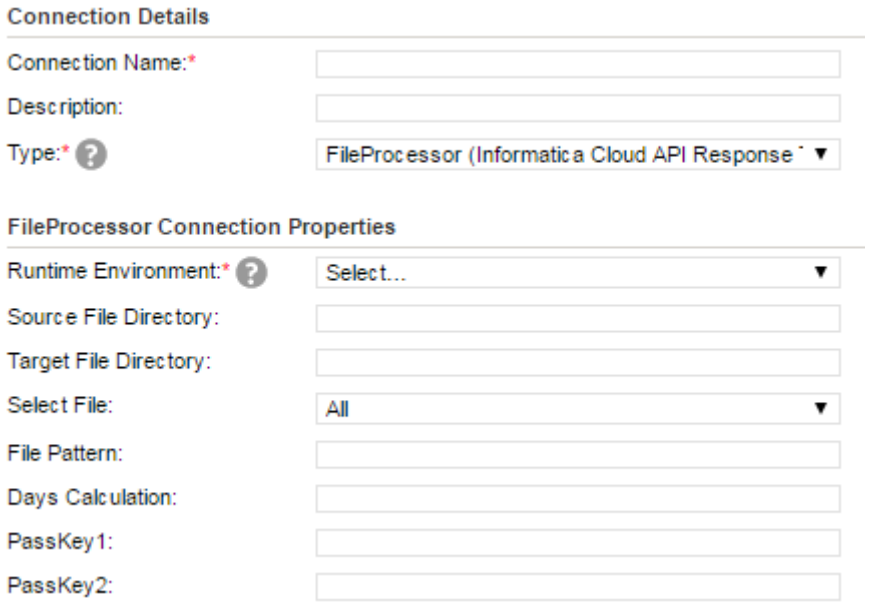
同期タスクで File Processor コネクタを使用するには、まずデータ統合で接続を作成する必要があります。IBM AS/400 FTP サーバー、IBM z/OS FTP サーバー、IBM AS/400 SFTP サーバー、または IBM z/OS SFTP サーバーに接続するための File Processor 接続を作成するときは、ソースファイルディレクトリを QGPL として

指定します。QGPL は、IBM AS/400 FTP、IBM z/OS FTP、IBM AS/400 SFTP、および IBM z/OS SFTP サーバーのライブラリです。

接続の設定は、［接続］ページまたはタスク設定時にウィザードで実行できます。

1. **［接続］**ページで、**［新しい接続］**をクリックして接続を作成します。

   ［新しい接続］ページが表示されます。
   次の図は、［新しい接続］ページの詳細を示しています。



2. ［新しい接続］ページで、次の接続プロパティを設定します。

接続プロパティ	説明
ランタイム環境	タスクを実行するランタイム環境の名前。
ソースファイルディレクトリ	転送するファイルが含まれる場所。
ターゲットファイルディレクトリ	転送されたファイルを配置する場所。
ファイルの選択	転送するファイル。フィールドに基づいてファイルを選択することができます。
ファイルパターン	転送するファイルのパターン。例えば、日付パターンに基づいてファイルを選択する場合は、［ファイルパターン］フィールドに日付形式を DD/MM/YYYY として指定できます。 注: **［ファイルの選択］**接続プロパティから**［すべて］**を選択した場合は、［ファイルパターン］フィールドは適用できません。

接続プロパティ	説明
日数計算	日数計算を使用して、指定された日付より前または指定された日付の後に作成または変更されたファイルを選択します。［日付パターンを含む］に基づいてファイルを選択し、指定された日付の前後に変更されたファイルを選択できるように**日数計算**の値を指定します。値を日数で指定します。月と年で値を指定することはできません。 例えば、［日付パターンを含む］に基づいてファイルを選択した場合は、データフィルタを使用して、LastModDate を DD/MM/YYYY 形式で 02/02/2016 と指定し、日数計算を-1 と指定します。01/02/2016 までに変更されたファイルが選択されます。
PassKey	FTP サーバーまたは SFTP サーバーに接続するための資格情報。例えば、FTP サーバーまたは SFTP サーバーのパスワードおよびパスフレーズを値 passkey1 および passkey2 として指定できます。

3. **［保存］**をクリックして接続を保存します。

   接続の詳細を保存する前に、接続をテストする必要があります。**［テスト接続］**をクリックして、接続が成功したかどうかを確認します。

特定のファイルの選択

File Processor 操作を実行する場合、単一ファイルも複数のファイルも選択できます。ファイルは、［ファイルの選択］接続プロパティで設定したフィールドに基づいて選択されます。次の表では、特定のファイルまたは特定のファイルのセットを選択するための［ファイルの選択］フィールドについて説明します。

フィールド	説明
すべて	ソースディレクトリからすべてのファイルを選択します。
Equals	ファイルパターンプロパティで指定された名前と等しいファイルを選択します。例えば、sample.docx を指定すると、sample.docx ファイルが選択されます。
Notequals	指定したファイルパターン以外のすべてのファイルを選択します。例えば、ファイルパターンを sample.txt と指定すると、sample.txt ファイルは選択されません。
StartsWith	指定したパターンで始まるファイルを選択します。例えば、StartsWith の値を sample と指定すると、sample という名前で始まるすべてのファイルが選択されます。
EndsWith	指定したパターンで終わるファイルを選択します。例えば、EndsWith パターンを.txt と指定すると、.txt で終わるすべてのファイルが選択されます。
FileExtension	指定されたファイル名拡張子を含むファイルを選択します。例えば、ファイルパターンで値を.txt と指定すると、すべての.txt ファイルが選択されます。
Contains	指定されたパターンを含むファイルを選択します。例えば、Contains パターンを sample と指定すると、ファイル名に sample を含むすべてのファイルが選択されます。
FileSizeGreaterThan	ファイルパターンで指定されたサイズより大きいファイルを選択します。ファイルサイズを KB で指定します。例えば、ファイルサイズを 30 と指定すると、30 を超えるすべてのファイルが選択されます。

フィールド	説明
FileSizeLessThan	指定されたサイズより小さいファイルを選択します。ファイルサイズを KB で指定します。 例えば、ファイルサイズを 30 と指定すると、30 未満のすべてのファイルが選択されます。
FileSizeEqualsto	指定されたサイズと等しいファイルを選択します。ファイルサイズを KB で指定します。 例えば、ファイルサイズを 30 と指定すると、サイズが 30 のすべてのファイルが選択されます。
FileSizeNotEqualsto	指定されたサイズと等しくないファイルを選択します。ファイルサイズを KB で指定します。 例えば、ファイルサイズを 30 と指定すると、サイズが 30 と等しくないすべてのファイルが選択されます。
Starts with DatePattern	指定した日付パターンで始まるファイルを選択します。例えば、ファイルパターンを DD/MM/YYYY と指定すると、DD/MM/YYYY の日付パターンで始まるすべてのファイルが選択されます。
EndsWithDatePattern	指定した日付パターンで終わるファイルを選択します。例えば、ファイルパターンを DD/MM/YYYY と指定すると、DD/MM/YYYY の日付パターンで終わるすべてのファイルが選択されます。
Contains Date Pattern	指定された日付パターンを含むファイルを選択します。例えば、ファイルパターンを DD/MM/YYYY と指定すると、DD/MM/YYYY の日付パターンを含むすべてのファイルが選択されます。

日付パターン形式

日付パターンを指定してファイルを選択する場合は、さまざまな形式で値を指定できます。

次の表は、日付パターンを指定するために使用できる形式を示しています。

日付または時刻のコンポーネント	値の表現	日付パターンの用語
年号指示子	テキスト	G 例えば、年号に 20 AD を指定する場合は、20:AD など GG:AD 形式で値を指定できます。
年	数字	y 例えば、年に 2001 を指定する場合は、yyyy:2001 または yy:01 形式で値を指定できます。
月（年）	数字	M 例えば、月に June を指定する場合は、MMMM:JUNE、MM:06、または MMM:JUN 形式で値を指定できます。
週（年）	数字	w 例えば、値に 45 を指定する場合は、ww:45 形式で値を指定できます。

日付または時刻のコンポーネント	値の表現	日付パターンの用語
週（月）	数字	W 例えば、値に 2 を指定する場合は、W:2 形式で値を指定できます。
日（年）	数字	D 例えば、値に 227 を指定する場合は、DDD:227 形式で値を指定できます。
日（月）	数字	d 例えば、値に 9 を指定する場合は、dd:09 形式で値を指定できます。
曜日（月）	数字	F 例えば、値に 3 を指定する場合は、F:3 形式で値を指定できます。
曜日	テキスト	E 例えば、値に水曜日を指定する場合は、E:Wednesday 形式で値を指定できます。
午前／午後マーカー	テキスト	a 例えば、aa:AM/PM 形式で値を指定できます。
時間（日）（0-23）	数字	H 例えば、値に 15 を指定する場合は、HH:15 形式で値を指定できます。
時間（日）（1-24）	数字	k 例えば、値に 24 を指定する場合は、kk:24 形式で値を指定できます。
時間（午前／午後）（0-11）	数字	K 例えば、値に 8 を指定する場合は、K:8 形式で値を指定できます。
時間（午前／午後）（1-12）	数字	h 例えば、値に 12 を指定する場合は、hh:12 形式で値を指定できます。
分（時）	数字	m 例えば、値に 45 を指定する場合は、mm:45 形式で値を指定できます。
秒（分）	数字	s 例えば、値に 58 を指定する場合は、ss:58 形式で値を指定できます。
ミリ秒	数字	S 例えば、値に 450 を指定する場合は、SSS:450 形式で値を指定できます。
タイムゾーン	一般的なタイムゾーン	z 例えば、値に 450 を指定する場合は、zzz:450 形式で値を指定できます。
タイムゾーン	RFC 822 時刻	Z 例えば、値に 800 を指定する場合は、ZZZ:800 形式で値を指定できます。

File Processor 接続のプロパティ

File Processor 接続をセットアップする際には、接続プロパティを設定する必要があります。

次の表に、File Processor 接続のプロパティを示します。

接続プロパティ	説明
ランタイム環境	タスクを実行するランタイム環境の名前。
ソースファイルディレクトリ	転送するファイルが含まれる場所。
ターゲットファイルディレクトリ	転送されたファイルを配置する場所。
ファイルの選択	転送するファイル。フィールドに基づいてファイルを選択することができます。
ファイルパターン	転送するファイルのパターン。例えば、日付パターンに基づいてファイルを選択する場合は、［ファイルパターン］フィールドに日付形式を DD/MM/YYYY として指定できます。 注: **［ファイルの選択］**接続プロパティから**［すべて］**を選択した場合は、［ファイルパターン］フィールドは適用できません。
日数計算	日数計算を使用して、指定された日付より前または指定された日付の後に作成または変更されたファイルを選択します。［日付パターンを含む］に基づいてファイルを選択し、指定された日付の前後に変更されたファイルを選択できるように**日数計算**の値を指定します。値を日数で指定します。月と年で値を指定することはできません。 例えば、［日付パターンを含む］に基づいてファイルを選択した場合は、データフィルタを使用して、LastModDate を DD/MM/YYYY 形式で 02/02/2016 と指定し、日数計算を-1 と指定します。01/02/2016 までに変更されたファイルが選択されます。
PassKey	FTP サーバーまたは SFTP サーバーに接続するための資格情報。例えば、FTP サーバーまたは SFTP サーバーのパスワードおよびパスフレーズを値 passkey1 および passkey2 として指定できます。

Windows でのプロキシ設定の構成

組織で送信プロキシサーバーを使用してインターネットに接続する場合、Secure Agent は、そのプロキシサーバー経由でデータ統合に接続します。FTP または SFTP 用にプロキシサーバーを使用できます。**［ProxySettings.ini］**ファイルと Secure Agent Manager を使用して、プロキシサーバーを有効にする必要があります。

Secure Agent Manager を使用してプロキシサーバーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. **［開始］** > **［すべてのプログラム］** > **［Informatica Cloud Secure Agent］** > **［Informatica Cloud Secure Agent］**をクリックして、Secure Agent Manager を起動します。

   また、Windows タスクバーの通知領域にあるデータ統合アイコンをクリックして、Secure Agent Manager を開くこともできます。

   Secure Agent Manager に Secure Agent のステータスが表示されます。

2. ［Secure Agent Manager］ページで**［プロキシ］**をクリックします。

3. **［プロキシサーバーを使用］**をクリックして、プロキシサーバーの設定を入力します。
4. 次のプロキシサーバーの詳細を設定します。

フィールド	説明
プロキシホスト	必須。Secure Agent が使用する送信プロキシサーバーのホスト名。
プロキシポート	必須。送信プロキシサーバーのポート番号。
ユーザー名	送信プロキシサーバーに接続するユーザー名。
パスワード	送信プロキシサーバーに接続するためのパスワード。

5. **［OK］**をクリックします。

   Secure Agent Manager によって Secure Agent が再起動され、設定が適用されます。
6. ［ProxySettings.ini］ファイルでプロキシサーバーフラグを有効にするには、次の手順を実行します。

   注: 接続をテストする際、［ProxySettings.ini］ファイルは Secure Agent により作成されます。

   a. ［ProxySettings.ini］ファイルを次のディレクトリからコピーします。

      <Secure Agent のインストールディレクトリ>\downloads\<最新のコネクタパッケージ>\package\plugins\FileProcessor\

   b. ［ProxySettings.ini］ファイルを次のディレクトリに貼り付けます。

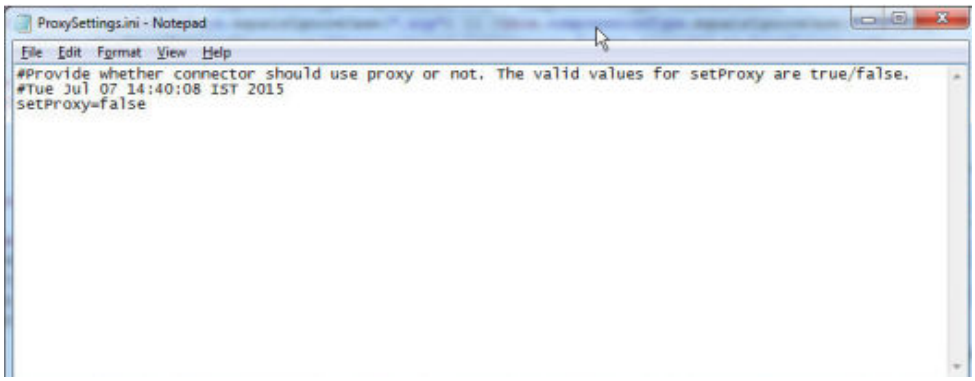
      <Secure Agent のインストールディレクトリ>\apps\Data_Integration_Server\ext\deploy_to_main\bin\rdtm-extra\FileProcessor\

      注: deploy_to_main\bin\rdtm-extra\FileProcessor\ディレクトリが存在しない場合は作成します。Linux ではフォルダ名は大文字小文字が区別されます。

   c. Secure Agent を再起動します。

   d. プロキシを有効にするには、**［setProxy］**フィールドの値を true に設定します。デフォルトでは、値は false です。

      次の図は、［ProxySettings.ini］ファイルの例を示しています。



第 3 章

File Processor 操作

この章では、以下の項目について説明します。

- File Processor 操作の概要, 16 ページ
- ローカルファイルシステムと FTP サーバーまたは SFTP サーバーとの間のファイルの転送 , 17 ページ
- ローカルファイルシステム内でのファイルの転送, 20 ページ
- FTP サーバーまたは SFTP サーバーからのファイルの削除, 22 ページ
- パブリックキーおよびプライベートキーベースの認証, 25 ページ
- ファイルの圧縮または圧縮解除, 27 ページ
- ファイルの暗号化または復号化, 28 ページ
- ファイルのアーカイブまたはアーカイブ解除, 30 ページ
- ファイル名の変更, 31 ページ

File Processor 操作の概要

File Processor コネクタを使用して、FTP サーバーまたは SFTP サーバーへのファイルのアップロードや、FTP サーバーまたは SFTP サーバーからローカルファイルシステムへのファイルのダウンロードなど、さまざまな操作を実行できます。ローカルファイルシステム内でファイルのコピーおよび移動を行うことができます。また、File Processor コネクタを使用して、ローカルファイルシステムのファイルの暗号化、復号化、圧縮、圧縮解除、アーカイブ、アーカイブ解除、および名前の変更を行うこともできます。

File Processor コネクタ操作を実行するには、次の手順を実行します。

1. File Processor 接続を作成します。
2. 同期タスクを作成します。
   - データフィルタを設定します。
   - フィールドをマッピングします。
3. 同期タスクを保存して実行します。

注: 文字？、！、*を含むファイル名は SFTP 操作では使用できません。

ローカルファイルシステムと FTP サーバーまたは SFTP サーバーとの間のファイルの転送

File Processor コネクタを使用して、ローカルシステムから FTP サーバーまたは SFTP サーバーへのファイルの転送や、FTP サーバーまたは SFTP サーバーからローカルファイルシステムへのファイルの転送を行います。ローカルシステムから FTP サーバーまたは SFTP サーバーにファイルをアップロードするには、FTP_PUT オブジェクトおよび SFTP_PUT オブジェクトを使用します。FTP または SFTP の場所からローカルファイルシステムにファイルをダウンロードするには、FTP_GET オブジェクトおよび SFTP_GET オブジェクトを使用します。

ローカルシステムと SFTP サーバーとの間のファイルの転送の例

Web サイト管理者として、ローカルファイルシステムから SFTP サーバーにファイルをアップロードする必要があるとします。この例では、データフィルタとして hostname、password、および UserID を指定できます。

ローカルファイルシステムから SFTP サーバーにファイルをアップロードするための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、**[新規]** > **[タスク]** をクリックします。
2. **[同期タスク]** を選択し、**[作成]** をクリックして同期タスクを作成します。

   [定義] タブが表示されます。
3. **[定義]** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: File_Process_SFTP_PUT
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	[挿入] を選択します。

4. **[次へ]** をクリックします。

   [ソース] タブが表示されます。
5. **[ソース]** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した接続を選択します。例: File_Process_SFTP_PUT
ソースタイプ	[単一] を選択します。
ソースオブジェクト	[SFTP_PUT] を選択します。

6. **[次へ]** をクリックします。

   [ターゲット] タブが表示されます。

7. ［**ターゲット**］タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	［ターゲットの作成］をクリックします。

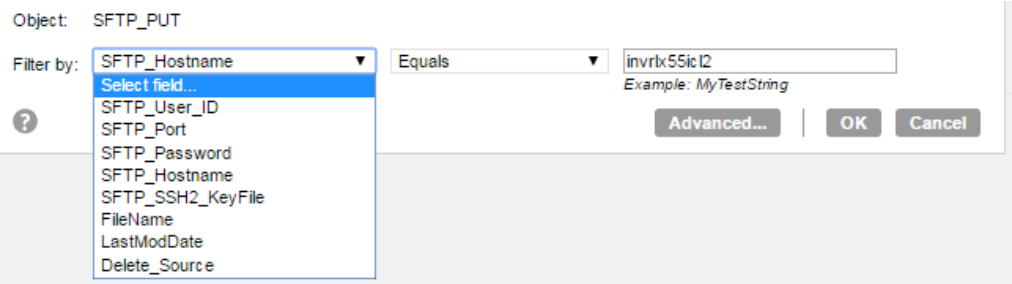
注: ターゲットファイルには、転送されたファイルのステータスが表示されます。

8. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**データフィルタ**］タブが表示されます。

9. フィルタオブジェクト、フィルタフィールド、およびフィルタ演算子を選択して、［**データフィルタ**］ページでデータフィルタを作成します。

   次の図は、［**データフィルタ**］ページを示しています。



   注: SFTP_GET、SFTP_PUT、FTP_GET、および FTP_PUT 操作を実行する場合は、FTP サーバーまたは SFTP サーバーに接続するために、hostname、password、および userID の各フィルタフィールドに値を指定する必要があります。

10. ［**次へ**］をクリックします。

    ［**フィールドマッピング**］タブが表示されます。

11. ［**フィールドマッピング**］タブで［**オートマッチ**］をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。
12. ［**マッピングの検証**］をクリックして、マッピングを検証します。
13. ［**保存**］をクリックし、次に［**終了**］をクリックします。
14. ［**エクスプローラ**］ページで、タスクを選択し、［**アクション**］ > ［**実行**］をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

IBM AS/400 FTP、IBM z/OS FTP、IBM AS/400 SFTP、または IBM z/OS SFTP サーバーからのファイルのダウンロード

FTP_GET オブジェクトを使用して、IBM AS/400 FTP サーバーまたは IBM z/OS FTP サーバーからローカルファイルシステムにファイルをダウンロードすることができます。SFTP_GET オブジェクトを使用して、IBM AS/400 SFTP サーバーまたは IBM z/OS SFTP サーバーからローカルファイルシステムにファイルをダウンロードすることができます。

IBM AS/400 FTP サーバー、IBM AS/400 SFTP サーバー、IBM z/OS FTP サーバー、または IBM z/OS SFTP サーバーからローカルファイルシステムにファイルをダウンロードするための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、［**新規**］ > ［**タスク**］をクリックします。

2. **［同期タスク］**を選択し、**［作成］**をクリックして同期タスクを作成します。

   ［定義］タブが表示されます。

3. **［定義］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。
場所	タスクフローを保存するプロジェクトとフォルダ。**［選択］**をクリックして、フォルダに移動します。タスクフローを作成する前に、プロジェクトとフォルダを作成する必要があります。タスクフロー作成ページからプロジェクトまたはフォルダを作成することはできません。デフォルト: ［エクスプローラ］ページで最後に表示したフォルダ。プロジェクトとフォルダを選択せず、［エクスプローラ］ページでフォルダを表示していない場合、データ統合はデフォルトの場所にタスクフローを保存します。
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	**［挿入］**を選択します。

4. **［次へ］**をクリックします。

   ［ソース］タブが表示されます。

5. **［ソース］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した File Processor 接続を選択します。
ソースタイプ	**［単一］**を選択します。
ソースオブジェクト	FTP_GET または SFTP_GET を選択します。
ソースフィールドをアルファベット順に表示	選択すると、ソースフィールドがアルファベット順に表示されます。デフォルトでは、ソースシステムによって返される順序でフィールドが表示されます。

6. **［次へ］**をクリックします。

   ［ターゲット］タブが表示されます。

7. **［ターゲット］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	**［ターゲットの作成］**をクリックします。

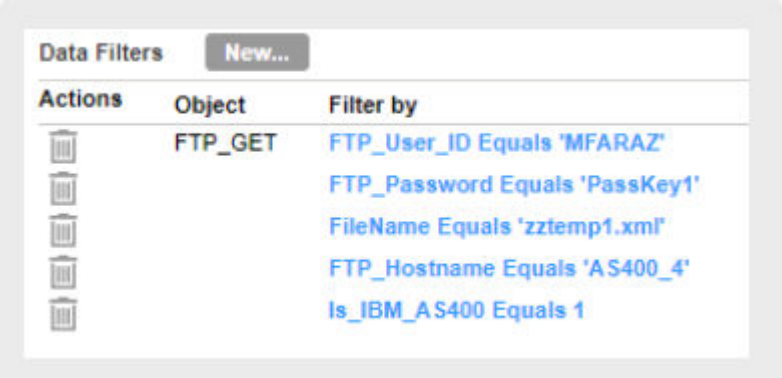
フィールド	説明
ラベルの代わりに技術名を表示	ビジネス名の代わりに技術名を表示します。
ターゲットフィールドをアルファベット順に表示	ソースフィールドを、ソースシステムによって返される順序ではなく、アルファベット順に表示します。

8. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**データフィルタ**］タブが表示されます。

9. ［**新規**］をクリックします。ソースオブジェクトおよびフィルタフィールドを選択して、［**データフィルタ**］ページでフィルタ式を定義します。

   次の図は、［**データフィルタ**］ページを示しています。



   注: IBM AS/400 FTP サーバー、IBM AS/400 SFTP サーバー、IBM z/OS FTP サーバー、または IBM z/OS SFTP サーバーに接続するには、Is_IBM_AS400 フィールドの値を 1 に指定する必要があります。

10. ［**フィールドマッピング**］タブで［**オートマッチ**］をクリックすると、ソースフィールドがターゲットフィールドに自動的にマッピングされます。
11. ［**マッピングの検証**］をクリックして、マッピングを検証します。
12. ［**保存**］をクリックし、次に［**終了**］をクリックします。
13. ［**エクスプローラ**］ページで、タスクを選択し、［**アクション**］ > ［**実行**］をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

ローカルファイルシステム内でのファイルの転送

File Processor コネクタを使用して、ローカルファイルシステム内でファイルを転送できます。File Processor コネクタを使用してローカルファイルシステム内でファイルを転送するには、データ統合で接続を作成する必

要があります。ファイルをコピーするには、FileCopy オブジェクトを使用し、ローカルファイルシステム内でファイルを移動するには、FileMove オブジェクトを使用します。

ローカルファイルシステム内でのファイルの転送の例

システム管理者として、ローカルファイルシステム内でファイルを移動する必要があるとします。

ローカルファイルシステム内でファイルを移動するための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、**［新規］** > **［タスク］** をクリックします。
2. **［同期タスク］** を選択し、**［作成］** をクリックして同期タスクを作成します。

   ［定義］ タブが表示されます。
3. **［定義］** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: Flat_File_Process_124_move_local
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	［挿入］を選択します。

4. **［次へ］** をクリックします。

   ［ソース］ タブが表示されます。
5. **［ソース］** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した接続を選択します。例: File_Process_move_local
ソースタイプ	［単一］を選択します。
ソースオブジェクト	［FileMove］を選択します。

6. **［次へ］** をクリックします。

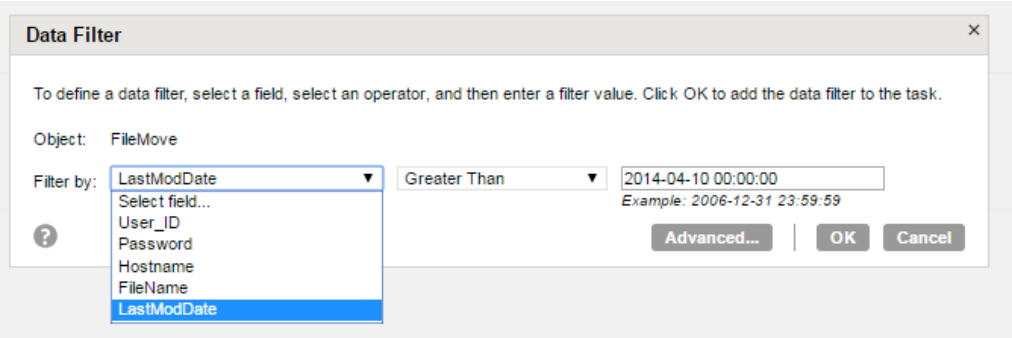
   ［ターゲット］ タブが表示されます。
7. **［ターゲット］** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	［ターゲットの作成］をクリックします。

8. **［次へ］** をクリックします。

   ［データフィルタ］ タブが表示されます。
9. フィルタオブジェクト、フィルタフィールド、およびフィルタ演算子を選択して、**［データフィルタ］** ページでデータフィルタを作成します。

次の図は、［**データフィルタ**］ページを示しています。



10. ［**次へ**］をクリックします。

    ［**フィールドマッピング**］タブが表示されます。

11. ［**フィールドマッピング**］タブで［**オートマッチ**］をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。
12. ［**マッピングの検証**］をクリックして、マッピングを検証します。
13. ［**保存**］をクリックし、次に［**終了**］をクリックします。
14. ［**エクスプローラ**］ページで、タスクを選択し、［**アクション**］ > ［**実行**］をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

FTP サーバーまたは SFTP サーバーからのファイルの削除

File Processor コネクタを使用して、FTP サーバーまたは SFTP サーバーからファイルを削除します。FTP サーバーまたは SFTP サーバーからファイルを削除するには、FTP_DELETE オブジェクトおよび SFTP_DELETE オブジェクトを使用します。

File_Path フィールドを使用して、フォルダからすべてのファイルを削除したり、フォルダから特定のファイルを削除したり、特定のファイルを削除したりできます。

- フォルダからすべてのファイルを削除するには、［**ソースファイルディレクトリ**］接続プロパティでフォルダパスを指定します。また、［**ファイルの選択**］接続プロパティで［**すべて**］を選択します。マッピングを作成するときに、File_Path フィールドでフィルタする必要はありません。
- フォルダから特定のファイルを削除するには、［**ソースファイルディレクトリ**］接続プロパティでフォルダパスを指定します。また、［**ファイルの選択**］接続プロパティでは、要件に基づいて［**FileExtension**］、［**Startswith**］、［**Endswith**］、［**Contains**］などのオプションを選択できます。マッピングを作成するときに、File_Path フィールドでフィルタする必要はありません。

- FTP または SFTP サーバーの場所に存在するものの、File Processor 接続の［**ファイルの選択**］プロパティドロップダウンのリストにないファイルを削除するには、Secure Agent の場所にあるファイルで削除するファイルのパスを指定する必要があります。
  マッピングでは、File_Path フィールドでフィルタできます。File_path フィールドに、ファイルのパスを格納するファイルの絶対パスを指定する必要があります。

  注: ファイルのパスを格納するファイルにファイルが複数ある場合は、そのファイルのうち 1 つが指定した場所に存在しなかった場合でも、SFTP の削除操作でそのファイルと以降のファイルの削除が失敗します。この場合、タスクは、マッピングの詳細プロパティで指定した再試行回数の値に基づいて、削除操作を再試行します。ただし、ファイルのパスを格納するファイルにファイルが複数ある場合で、そのファイルのうち 1 つが指定した場所に存在しなかった場合、FTP の削除操作で指定した場所に存在するその他のすべてのファイルが削除されます。

FTP サーバーからのファイルの削除の例

システム管理者として、FTP サーバーからファイルを削除する必要があるとします。File_Path または LastModDate フィルタフィールドを使用して、FTP サーバーからファイルを削除することができます。

FTP サーバーからファイルを削除するための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、［**新規**］ > ［**タスク**］をクリックします。
2. ［**同期タスク**］を選択し、［**作成**］をクリックして同期タスクを作成します。

   ［**定義**］タブが表示されます。
3. ［**定義**］タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: FTP_DELETE_01。
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	［挿入］を選択します。

4. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**ソース**］タブが表示されます。
5. ［**ソース**］タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した接続を選択します。例: FP_FTP_DELETE。
ソースタイプ	［単一］を選択します。
ソースオブジェクト	［FTP_DELETE］を選択します。

6. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**ターゲット**］タブが表示されます。

7. **［ターゲット］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	［ターゲットの作成］をクリックします。

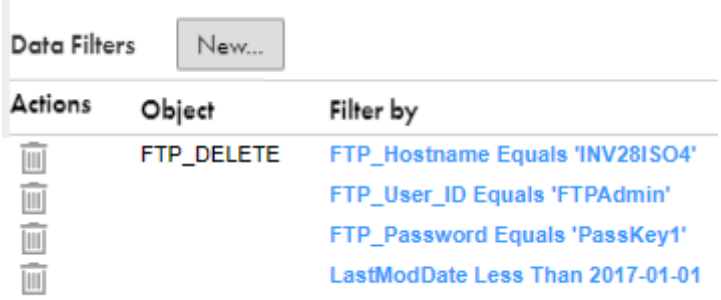
8. **［次へ］**をクリックします。

   ［データフィルタ］タブが表示されます。

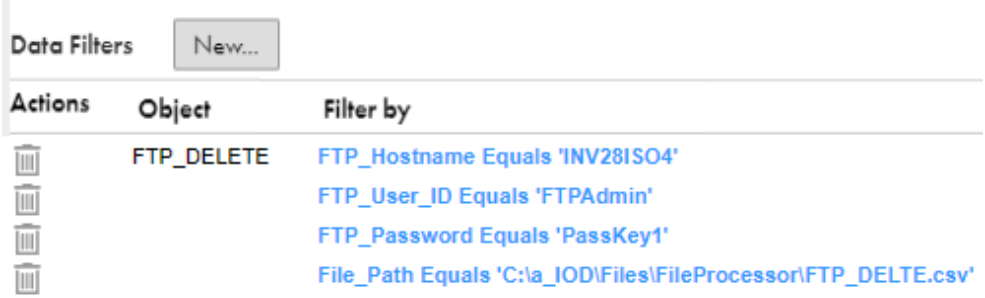
9. 新しいフィルタを作成し、**［データフィルタ］**ページの LastModDate または File_Path フィールドでフィルタリングします。

   注: LastModDate または File_Path フィールドでフィルタリングしない場合、Secure Agent はソースファイルディレクトリ内のすべてのファイルを削除します。

   - LastModDate でフィルタリングする場合は、次の図に示すように、FTP_Hostname、FTP_User_ID、FTP_Password、および LastModDate フィールドを指定します。



   - File_Path でフィルタリングする場合は、次の図に示すように、FTP_Hostname、FTP_User_ID、FTP_Password、および File_Path フィールドを指定します。



   注: 接続では、ソースファイルディレクトリを指定し、FTP_Password 値に PassKey1 を指定する必要があります。

10. **［次へ］**をクリックします。

    ［フィールドマッピング］タブが表示されます。

11. **［フィールドマッピング］**タブで**［オートマッチ］**をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。

12. **［マッピングの検証］**をクリックして、マッピングを検証します。

13. **［保存］**をクリックし、次に**［終了］**をクリックします。

14. **［エクスプローラ］** ページで、タスクを選択し、**［アクション］** > **［実行］** をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

パブリックキーおよびプライベートキーベースの認証

File Processor コネクタは、SFTP サーバーのパブリックキーおよびプライベートキーベースの認証をサポートしています。

File Processor コネクタは、FTP サーバー（SSH を介した FTP）のパブリックキーおよびプライベートキーベースの認証をサポートしています。File Processor コネクタは、SSL を介した FTP をサポートしています。SSL を介した FTP を有効にするには、IS_SSL_Enabled フィルタフィールドを 1 に設定します。

SFTP サーバーのパブリックキーおよびプライベートキーベースの認証の使用例

File Processor コネクタは、SFTP サーバーのパブリックキーおよびプライベートキーベースの認証をサポートしています。

ローカルシステムから SFTP サーバーにファイルを転送またはアップロードする場合や、SFTP サーバーからローカルファイルシステムにファイルをダウンロードする場合は、パブリックキーおよびプライベートキーベースの認証を使用できます。この例では、SFTP サーバーからローカルファイルシステムにファイルをダウンロードし、プライベートキーベースの認証を使用する必要があるとします。SFTP_User_ID、SFTP_Hostname、FileName、および SFTP_SSH2_KeyFile をデータフィルタとして指定できます。

同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、**［新規］** > **［タスク］** をクリックします。
2. **［同期タスク］** を選択し、**［作成］** をクリックして同期タスクを作成します。

   ［定義］ タブが表示されます。
3. **［定義］** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: File_Process_SFTP_GET
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	［挿入］を選択します。

4. **［次へ］** をクリックします。

   ［ソース］ タブが表示されます。

5. **［ソース］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した接続を選択します。例: File_Process_SFTP_GET
ソースタイプ	［単一］を選択します。
ソースオブジェクト	［SFTP_GET］を選択します。

6. **［次へ］**をクリックします。

   ［ターゲット］タブが表示されます。

7. **［ターゲット］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	［ターゲットの作成］をクリックします。

8. **［次へ］**をクリックします。

   ［データフィルタ］タブが表示されます。

9. 新しいフィルタを作成し、**［データフィルタ］**ページの SFTP_User_ID、SFTP_Hostname、FileName、および SFTP_SSH2_KeyFile フィールドでフィルタリングします。

   次の図は、**［データフィルタ］**ページを示しています。

   ［SFTP_SSH2_KeyFile］フィールドで完全なプライベートキーファイルパスをデータフィルタとして入力する必要があります。この例では、プライベートキーファイルパスは `C:\a_IOD\Files\FileProcessor\ICS-9902\test_private.ppk` です。

   注: Processor Connector コネクタは、秘密キーにパスフレーズがある場合、拡張子が.pvk の秘密キーのみをサポートします。

   キー生成中にパスフレーズを使用する場合は、**［SFTP_PassPhrase］**フィールドでパスフレーズをデータフィルタとして入力する必要があります。同期タスクでパスフレーズをデータフィルタとして入力するには、パスフレーズ値を SFTP 接続プロパティの passkey フィールドの 1 つとして指定します。

10. **［次へ］**をクリックします。

    ［フィールドマッピング］タブが表示されます。

11. **［フィールドマッピング］**タブで**［オートマッチ］**をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。

12. **［マッピングの検証］**をクリックして、マッピングを検証します。

13. **［保存］**をクリックし、次に**［終了］**をクリックします。

14. ［**エクスプローラ**］ページで、タスクを選択し、［**アクション**］ > ［**実行**］をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

ファイルの圧縮または圧縮解除

File Processor コネクタを使用して、ローカルファイルを圧縮および圧縮解除します。

ローカルファイルを圧縮するには FileCompress オブジェクトを使用し、圧縮解除するには FileDecompress オブジェクトを使用します。File Processor コネクタは、ローカルファイルを圧縮および圧縮解除するための zip、gzip、および 7zip ファイル形式をサポートしています。

ファイルの圧縮または圧縮解除の例

システム管理者として、ローカルファイルシステムに存在するファイルを圧縮する必要があるとします。

ローカルファイルシステムに存在するファイルを圧縮するための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、［**新規**］ > ［**タスク**］をクリックします。
2. ［**同期タスク**］を選択し、［**作成**］をクリックして同期タスクを作成します。

   ［**定義**］タブが表示されます。
3. ［**定義**］タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: File_Process_Compression
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	［挿入］を選択します。

4. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**ソース**］タブが表示されます。
5. ［**ソース**］タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した接続を選択します。例: File_Process_Compression_Conn
ソースタイプ	［単一］を選択します。
ソースオブジェクト	［FileCompress］を選択します。

6. ［**次へ**］をクリックします。

   ［**ターゲット**］タブが表示されます。

7. **［ターゲット］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	［ターゲットの作成］をクリックします。

8. **［次へ］**をクリックします。

   ［データフィルタ］タブが表示されます。

9. 新しいフィルタを作成し、**［データフィルタ］**ページの FileName、CompressionType、lastModDate、または CompressAllFiles フィルタフィールドに基づいてフィルタリングします。CompressAllFiles フィルタフィールドを使用してファイルを単一の zip ファイルまたは.7z ファイルに圧縮できます。
10. **［次へ］**をクリックします。

    ［フィールドマッピング］タブが表示されます。

11. **［フィールドマッピング］**タブで**［オートマッチ］**をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。
12. **［マッピングの検証］**をクリックして、マッピングを検証します。
13. **［保存］**をクリックし、次に**［終了］**をクリックします。
14. **［エクスプローラ］**ページで、タスクを選択し、**［アクション］** > **［実行］**をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

ファイルの暗号化または復号化

File Processor コネクタを使用して、ローカルファイルを暗号化および復号化することが出来ます。ファイルを暗号化および署名するには、FileEncrypt オブジェクトを使用します。ローカルファイルを復号化して検証するには、FileDecrypt オブジェクトを使用します。File Processor コネクタは、ローカルファイルを暗号化および復号化するための.pgp、.gpg、および.pbe 形式をサポートしています。

ファイルの暗号化または復号化の例

システム管理者として、ローカルファイルシステムに存在するファイルを暗号化する必要があるとします。

ローカルファイルシステムに存在するファイルを暗号化するための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、**［新規］** > **［タスク］**をクリックします。
2. **［同期タスク］**を選択して**［作成］**をクリックします。

   ［定義］タブが表示されます。

3. **［定義］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: File_Process_Encryption
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	［挿入］を選択します。

4. **［次へ］**をクリックします。

   ［ソース］タブが表示されます。

5. **［ソース］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した接続を選択します。例: File_Process_Encryption_GPG_perf
ソースタイプ	［単一］を選択します。
ソースオブジェクト	［FileEncrypt］を選択します。

6. **［次へ］**をクリックします。

   ［ターゲット］タブが表示されます。

7. **［ターゲット］**タブで次のフィールドを設定します。

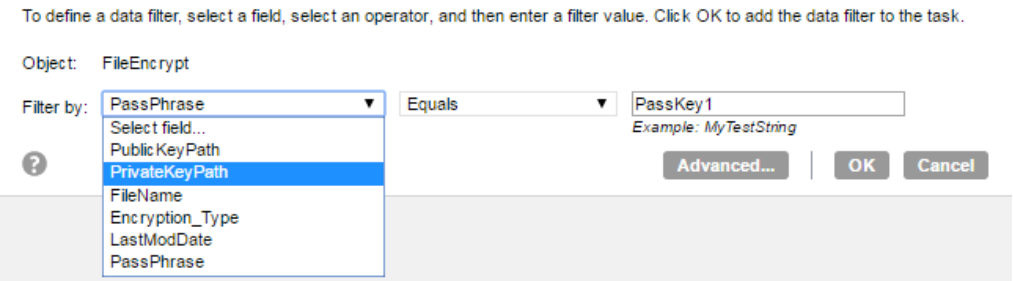
フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	［ターゲットの作成］をクリックします。

8. **［次へ］**をクリックします。

   ［データフィルタ］タブが表示されます。

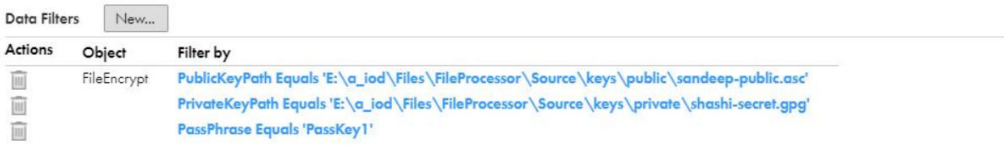
9. フィルタオブジェクト、フィルタフィールド、およびフィルタ演算子を選択して、**［データフィルタ］**ページでデータフィルタを作成します。

   次の図は、**［データフィルタ］**ページを示しています。



署名による暗号化を使用する場合は、ファイルを暗号化するための受信者のパブリックキーのパスと、ファイルに署名するための送信者のプライベートキーのパスを指定します。**［データフィルタ］**ページで、

FileEncrypt オブジェクトのパブリックキーのパスとプライベートキーのパスを指定します。次の図は、**［データフィルタ］** ページを示しています。



10. **［次へ］** をクリックします。

    ［フィールドマッピング］ タブが表示されます。
11. **［フィールドマッピング］** タブで **［オートマッチ］** をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。
12. **［マッピングの検証］** をクリックして、マッピングを検証します。
13. **［保存］** をクリックし、次に **［終了］** をクリックします。
14. **［エクスプローラ］** ページで、タスクを選択し、**［アクション］** > **［実行］** をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視出来ます。

ファイルのアーカイブまたはアーカイブ解除

File Processor コネクタを使用して、ローカルファイルをアーカイブおよびアーカイブ解除することができます。ローカルファイルをアーカイブするには FileArchive オブジェクトを使用し、アーカイブ解除するには FileUnarchive オブジェクトを使用します。File Processor コネクタは、ローカルファイルをアーカイブおよびアーカイブ解除するための tar 形式をサポートしています。

ファイルのアーカイブまたはアーカイブ解除の例

システム管理者として、ローカルファイルシステムに存在するファイルをアーカイブする必要があるとします。

ローカルファイルシステムに存在するファイルをアーカイブするための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、**［新規］** > **［タスク］** をクリックします。
2. **［同期タスク］** を選択し、**［作成］** をクリックして同期タスクを作成します。

   ［定義］ タブが表示されます。
3. **［定義］** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: File_Process_TAR_Archive_LRT
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	［挿入］を選択します。

4. **［次へ］** をクリックします。

   ［ソース］ タブが表示されます。

5. **［ソース］**タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成した接続を選択します。例: File_Process_TAR_Archive_all
ソースタイプ	［単一］を選択します。
ソースオブジェクト	［FileArchive］を選択します。

6. **［次へ］**をクリックします。

   ［ターゲット］タブが表示されます。

7. **［ターゲット］**タブで次のフィールドを設定します。

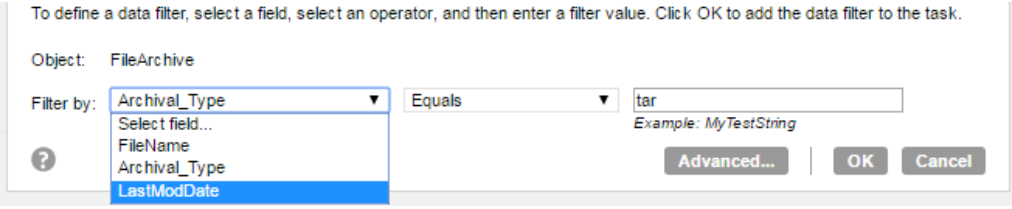
フィールド	説明
接続	フラットファイル接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	［ターゲットの作成］をクリックします。

8. **［次へ］**をクリックします。

   ［データフィルタ］タブが表示されます。

9. フィルタオブジェクト、フィルタフィールド、およびフィルタ演算子を選択して、**［データフィルタ］**ページでデータフィルタを作成します。

   次の図は、**［データフィルタ］**ページを示しています。



10. **［次へ］**をクリックします。

    ［フィールドマッピング］タブが表示されます。

11. **［フィールドマッピング］**タブで**［オートマッチ］**をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。
12. **［マッピングの検証］**をクリックして、マッピングを検証します。
13. **［保存］**をクリックし、次に**［終了］**をクリックします。
14. **［エクスプローラ］**ページで、タスクを選択し、**［アクション］** > **［実行］**をクリックします。

    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

ファイル名の変更

File Processor コネクタを使用して、ローカルファイルの名前を変更できます。ローカルファイルの名前を変更するには、FileRename オブジェクトを使用します。

ファイル名の変更の例

システム管理者として、ローカルファイルシステムに存在するファイル名を変更する必要があるとします。

ローカルファイルシステムに存在するファイル名を変更するための同期タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. データ統合で、**[新規]** > **[タスク]** をクリックします。
2. **[同期タスク]** を選択し、**[作成]** をクリックして同期タスクを作成します。

   [定義] タブが表示されます。
3. **[定義]** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
タスク名	同期タスクの名前。例: FileProcessor_Rename
説明	同期タスクの説明。最大長は 255 文字です。
タスク操作	[挿入] を選択します。

4. **[次へ]** をクリックします。

   [ソース] タブが表示されます。
5. **[ソース]** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	作成したフラットファイル接続を選択します。例: Conn_filerename_src
ソースタイプ	[単一] を選択します。
ソースオブジェクト	名前を変更するファイルの詳細を含むファイルを選択します。ソースファイルには、実際のファイル名のカラムと新しいファイル名のカラムが含まれている必要があります。両方のカラムで、ファイル名をディレクトリで指定します。例: `E:\a_IOD\Files\File Processor\Source\Rename\sample_ren2.txt`。

6. **[次へ]** をクリックします。

   [ターゲット] タブが表示されます。
7. **[ターゲット]** タブで次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
接続	File Processor 接続を選択します。
ターゲットオブジェクト	[FileRename] を選択します。

8. **[次へ]** をクリックします。

   [フィールドマッピング] タブが表示されます。
9. **[フィールドマッピング]** タブで **[オートマッチ]** をクリックすると、その内容に応じてソースフィールドがターゲットフィールドにマッピングされます。

10. ［**マッピングの検証**］をクリックして、マッピングを検証します。
11. ［**保存**］をクリックし、次に［**終了**］をクリックします。
12. ［**エクスプローラ**］ページで、タスクを選択し、［**アクション**］ > ［**実行**］をクリックします。
    モニタで、タスクの実行後にログのステータスを監視できます。

索引

C

Cloud Application Integration コミュニティ
　URL 5
Cloud 開発者コミュニティ
　URL 5

F

File Processor
　接続プロパティ 14
　同期タスクのソース 16
File Processor コネクタ
　概要 7, 9
File Processor 操作 17, 21
FTP 転送または SFTP 転送 17

I

Informatica Intelligent Cloud Services
　Web サイト 5
Informatica グローバルカスタマサポート
　連絡先情報 6

W

Web サイト 5
Windows
　プロキシの設定 14

あ

アップグレード通知 6

し

システムステータス 6

す

ステータス
　Informatica Intelligent Cloud Services 6

そ

ソースオブジェクト 7

た

ターゲット
　同期タスクにおける File Processor ターゲット 16

ふ

ファイルの選択
　転送するファイル 11, 12
ファイルの転送 7
プロキシ設定
　Windows 上での設定 14

め

メンテナンスの停止 6

ろ

ローカルファイル転送 21